

特集 ノーブル・ロイヤル

『まいりませ、幻想図書館』 眼鏡の淑女と古書の謎

ひずき 優/著 集英社 集英社コバルト文庫

一族そろっての美貌を武器に、上流貴族との外戚関係を築きのし上がってきたロシュ家の末子アムネリアは、三度の飯より本が好き！という一族きっての変わり者。その性格ゆえ政略結婚等のしがらみに囚われず、田舎で読書三昧の日々を送る彼女は、ある日王都に向かうこととなった。奔放な彼女にもついに縁談が持ち込まれたのだ。しかもお相手は「結婚相手としては王太子殿下に次ぐ」とまで言われる名家、エストリンゼン公爵家の子息だという。しかし、彼女にはそんな縁談より興味津々なものが王都にあった。世界有数の規模を誇る大図書館「幻想図書館」だ。来館して早々縁談を蹴ってしても図書館で働く身になりたいと騒ぎ始めた彼女だが、そこには幼いころ、身を挺して貴重書を救った際に出会った少年の成長した姿が。しかも、その元少年こと図書館の護衛騎士は、エストリンゼンに連なるものという噂で…？

『エルフ皇帝の後継者』 上下巻

キャサリン・アディスン/著 和爾 桃子/訳 東京創元社 創元推理文庫

父である皇帝や第一皇子たちが不慮の事故で突然いなくなり、急遽皇帝の跡を継ぐ事になった第四皇子のマヤ。母親の出自ゆえに父から疎まれ、宮廷から追放されて育ったマヤの生活は一変。慣れない宮廷での生活や次々発生する難題に加え、どうやら先帝たちの事故は事件であるという噂も。周りは敵だらけ。それでも見つけた数少ない信頼できる人たちと共に陰謀渦巻く荒波に飛び込んでいく。

ドロドロしています。けれどマヤの人柄なのかほんわかした印象も少し。問題だらけの毎日を、壁にぶつかりながらも前進する新しい若き皇帝の苦悩と成長の物語です。(王様になるって大変…)

今回の特集は「ノーブル・ロイヤル」でお送りいたします。

上流階級、特に王族たちの優雅で苛烈な、知的でしたたかな、豪華でセコい華やかな生活をご堪能くださいませ。

『プリンセスブートキャンプ』

M・A・ラーソン/著 服部 理佳/訳 アルファポリス 星雲社 (発売)

ペニーロイヤル・アカデミー。血筋を問わず扉が開かれているアカデミーの目的は…楯のプリンセスを育て、世界中に恐怖をもたらす邪悪な魔女と戦うこと。呪いによって記憶をなくした少女が入学(?)する時、運命の歯車が動き出す。おとぎ話に登場するプリンセスたちも実は通っていたこのアカデミー。妖精軍曹をはじめとする教官たちの下、激しく優雅に心と身体(からだ)を鍛えていきます。ちなみに、なぜ入学“(?)”なのかは読んでみるとわかります。(プリンセスになるって大変…)

『うちの執事が言うことには』 全9巻

高里 椎奈/著 KADOKAWA 角川文庫

父の唐突な引退宣言から、突然日本有数の名家烏丸家の当主となり、海外から帰国した花頼からすまは、子供時代から親身に仕えてくれた老執事、おおとり鳳との生活に心躍らせていた。(同じころ、烏丸家にフットマンとして仕えていた衣更月きさらぎは、ともすれば不良にすらなっていたかもしれない自分を救い、執事という進路を与え、あらゆる知識や技術を与えてくれた鳳の栄転と自身の執事への昇進に困惑していた。)花頼が屋敷に戻った初日、楽しみに執事を呼び出すと(衣更月は困惑しつつ対応すると)そこには鳳ではない見知らぬ執事が…(衣更月の前に、とてもよい関係を築けなさそうな若主人が…)。こうして出来上がってしまった「すれ違いコンビ」の前に立ちはだかるのは、烏丸の名を陥れ、のし上がろうとする者たちの権謀術数渦巻くドロドロとした社交界。果たして彼らの、烏丸家の運命は？

新シリーズ『うちの執事に願ったならば』(既刊5巻)も開始!すれ違いコンビの苦闘は続きます…。

『綺羅の皇女』 既刊1巻

宮之崎 桜子/著
講談社
講談社文庫

『黎明国花伝』 全3巻

喜咲 冬子/著
KADOKAWA
富士見L文庫